

一龍院だより

〈発行所〉
修弘山一龍院
調布市入間町
1-38-1
TEL03-
3308-4440

日蓮大聖人様のお言葉のご紹介

やお寺の行事や日常などを不定期で記事にして発行いたします。ご自由にお持ちになってください。

(第八号彼岸特別号)

日蓮大聖人様の聖語

国土乱れん時は、

先ず鬼神乱る

『立正安国論』／文応元年（一二六〇）三十九歳
『鬼神を善神に』

古典『徒然草』には、「女が鬼になって京の町に來たという噂がたち、鬼探しが流行ったが誰も鬼を見つけれない。その後、病気になる人が増え、鬼の噂はその前兆だったのかも」といった記述があります。

昔から鬼は人に禍をもたらす目に見えない存在として理解されてきたようです。では鬼はどこにいるのでしょうか。それはそれぞれの人の心の中です。そして鬼は、善神になったり、また鬼神に戻ったりと、折々に変化していきます。

世の中では良いこと、悪いことが次々起ります。



現実の世界と目に見えない心の世界が影響し合っているからです。人がお互いに敬い合い、優しい気持ちになることで、互いの心に棲む鬼神が善神に変わっていきます。誰にでもできる小さな思いやりが、安穏な世界の実現につながっていくのです。

◎日蓮聖人ご遺文『立正安国論』

国の乱れは人心の乱れが原因とし、一刻も早く心を正し安穏な世の中を作っていくかなければならないという提案です。聖人は世の安穏を願って、鎌倉幕府の實力者に提出しました。

文応元年（一二六〇）三十九歳

（日蓮宗今月の法話より）

春の彼岸会法要の季節です

彼岸とは「彼岸」つまり、仏さまの世界（浄土）を意味し、私たちが暮らしている苦しみや迷いが多い世界（此岸、しがん）から仏さまの世界に渡ることを「到（とう）彼岸（ひがん）」と呼びます。昼夜の時間が同じになる春と秋のお中日を中心として前後三日の合わせた七日間が「お彼岸」の期間とされ、昔から人々は先祖の墓参りをしたり、お寺で経をあげ、先祖の供養をしてきました。

お塔婆供養はお墓にお持ち

にならなくても大丈夫です

上の写真のように本堂にお供えいたしますので、お墓までお持ちにならなくても大丈夫です。お釈迦様のお墓として古代インド語で「塔」を意味するストウーパが建てられました。お釈迦様が亡くなられた時、この塔を建てて供養したのが「お塔婆」の始まりといわれています。ご自身のご先祖様の供養のために志す事が多いようですが、友人やお世話になった方、また有縁の方にたむけて、善行を積まれるとよいでしょう。

電話 〇三―三三〇八―四四四〇

修弘山 一龍院